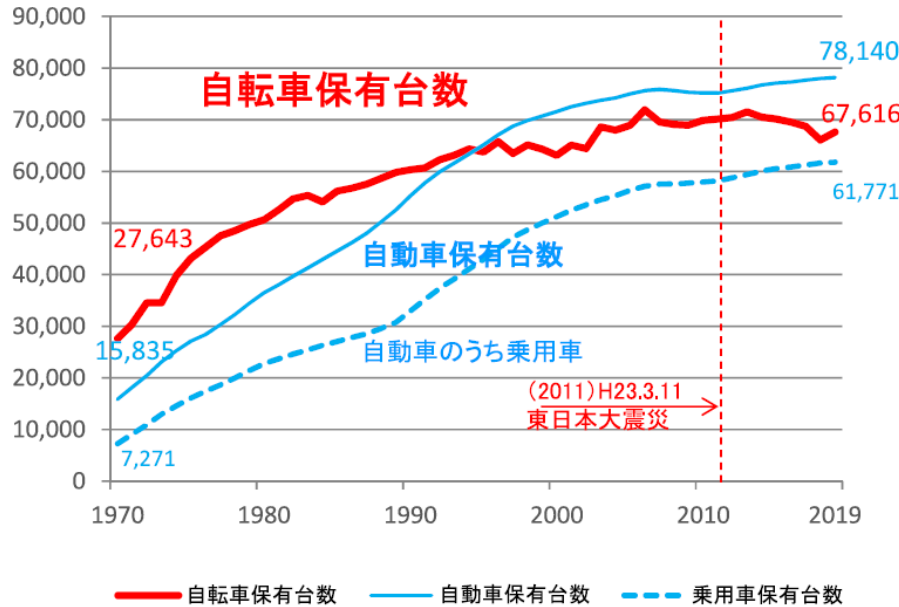


国内(県内)における自転車保有台数

- 【全国】 我が国の自転車保有台数は、約7,000万台(約2人に1台)
2000年代に入ってから横ばいで推移し、乗用車の保有台数と同程度となっている。
- 【山形県】自転車保有世帯の割合:全国第3位(77.9%)、1世帯当たりの自転車平均保有台数:全国第2位(1.53台)

■自転車保有台数の推移
(千台)

【全国】



①全国における山形県の状況

(出典:平成30年度自転車保有実態に関する調査報告書(一般社団法人 自転車産業振興協会))

【山形県(H30)】

1) 自転車の保有状況

自転車保有世帯の割合は全国第3位(77.9%)、1世帯当たりの自転車平均保有台数は全国第2位(1.53台)と高く、県内では多くの自転車が保有されている。

自転車保有世帯の割合

順位	都道府県	%
1	滋賀県	78.4
2	埼玉県	78.1
3	山形県	77.9
45	鹿児島県	49.6
46	沖縄県	44.5
47	長崎県	32.1

1世帯当たりの
自転車平均保有台数

順位	都道府県	台
1	滋賀県	1.62
2	山形県	1.53
3	埼玉県	1.51
	大阪府	1.51
46	沖縄県	0.72
47	長崎県	0.56

※自転車保有台数は標本調査による推計値。自動車保有台数は二輪車を除く、各年3月の登録台数。

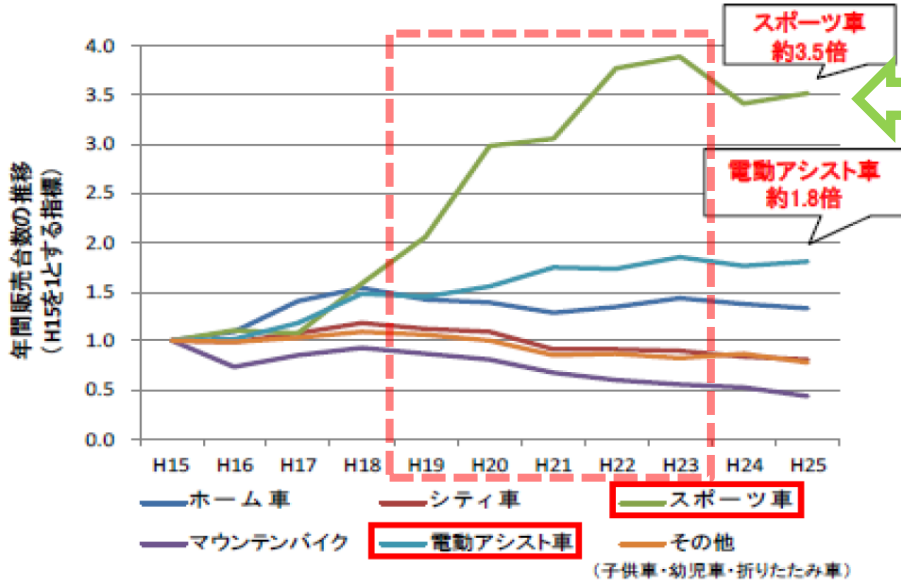
【出典:自転車(S45~H20)(社)自転車協会
(H21~H25 (財)自転車産業振興協会
(H26~H29)自転車保有台数推計報告書 (財)自転車産業振興協会
自動車:(財)自動車検査登録情報協会】

出典:山形県自転車活用推進計画

国内における車種別販売台数の推移

- H18(2006)～H23(2011)にかけて、スポーツ車(ロードバイク等)の販売台数が増加した。
- 近年、自転車をスポーツ・レジャーとしてライフスタイルに取り入れる人が増えつつある中、その流れがコロナ禍で加速、ポストコロナの観光復活に向けて、「サイクルツーリズム」にも期待が高まっている。

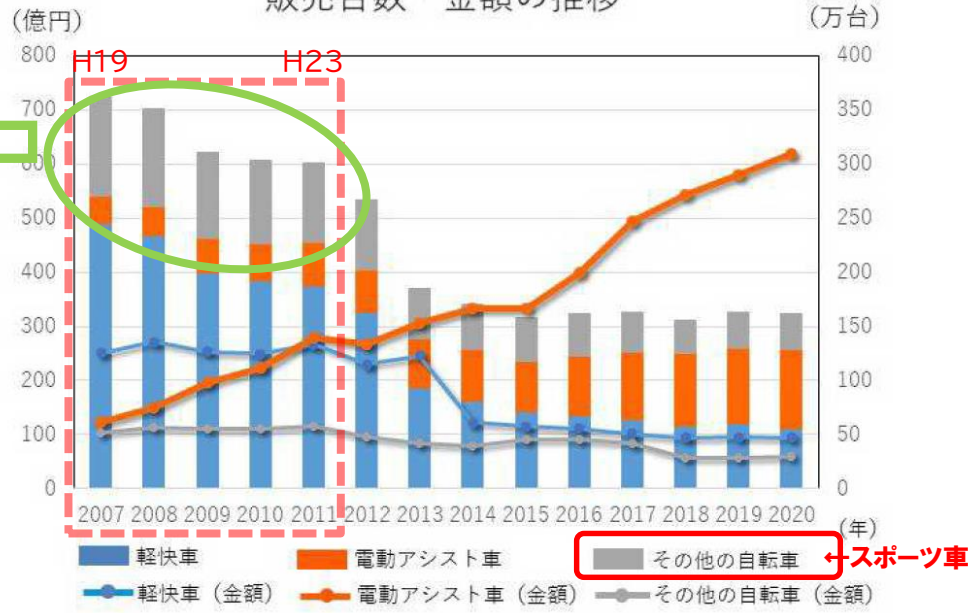
車種別販売台数の推移



【出典：(財)自転車産業振興協会
自転車国内販売動向調査】

出典：北海道(サイクルツーリズムを取り巻く環境)

販売台数・金額の推移



(資料) 生産動態統計調査 (経済産業省)

出典：国土交通省HP

電動アシストバイク



ロードバイク (スポーツ車)



訪日外国人観光客の増加・サイクリングを楽しむ外国人

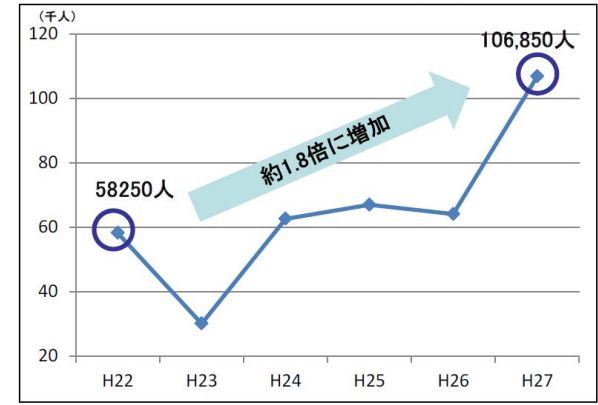
- コロナ禍前の2019年には、訪日外国人が3,000万人を超え、2013年に比べると3倍に増加
- 外国人のサイクリストをターゲットとした「しまなみ海道」では、宿泊者が増加。北海道でも受入事例あり。

訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移



出典：日本政府観光局 (JNTO)

外国人宿泊者数の推移(愛媛県)



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査

道内のインバウンドサイクリスト受入事例

- ・サイクリングを楽しむ外国人観光客を積極的に受入れ
- ・地域振興に役立てる



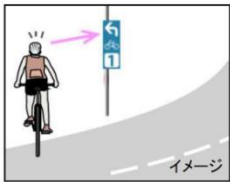
台湾のサイクリング関係者を対象とするfamトリップ(視察旅行)を実施し、効果的な情報発信方法を検討。(H24、北海道開発局「北海道におけるインバウンド観光に資するスポーツ・体験型ツーリズムに係る調査」)

- 自転車を活用した観光振興の方策として、地域特有の道路環境を走って楽しんだり、地域独自の観光資源や魅力等を楽しむことを促す「サイクルツーリズム」の取り組みが効果的。
- そのためには、**走行環境確保や拠点・受入環境確保、魅力づくり、情報発信等を、官民が連携しながら進めることが重要。**

走行環境確保



＜路面表示＞



＜案内看板＞

魅力づくり



＜組織・体制の構築※1＞

拠点・受入環境確保

- ・トイレ／給水
- ・入浴やシャワー施設
- ・おしぼりの提供
- ・観光パンフレットやサイクリングマップの設置



- ・サイクルスタンド
- ・メンテナンススペース
- ・工具／空気入れの貸出
- ・レンタサイクル
- ・ロッカー（一時荷物預り）



＜道の駅のサイクリング拠点化＞

- ・屋外の休憩スペース
- ・ツーリング中に長時間の利用が可能な駐車スペースの提供



＜地域特有の体験型観光※2＞



情報発信



＜多言語化した自転車マップ※1＞

【資料】

※1：しまなみジャパン

※2：SATOYAMA EXPERIENCE

サイクルツーリズムの推進に関する取り組み①

- しまなみ海道では、サイクリストが立ち寄れる休憩スポットの設置や、自転車の修理に対応したタクシーの導入など、サイクリスト向けの取り組みを推進
- しまなみ海道の起点である尾道市では、国外からの観光客が4年で4倍に増加 ⇒ **7年では5倍に増加**

【しまなみ海道サイクリングロードの取り組み】

(サイクリングロードの概要)

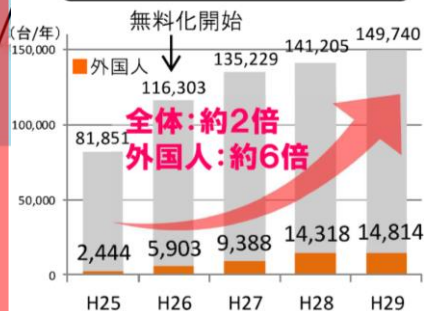
- 本州四国連絡道路の自転車歩行者道を活用。
- 前後区間も合わせた路面表示や看板設置により、連続したサイクリングロードを形成。

現在では、『ナショナルサイクルルート』に指定



出典: 広島県HP
(令和2年度国の予算編成に向けた提案(令和元年10月))

外国人へのレンタサイクル貸出数(しまなみ海道)



(サイクルツーリズムに関する取り組み)

- サイクリストが立ち寄れる休憩スポットである「サイクルオアシス」※1や、自転車の修理に対応した「島走レスキュー」※2など、サイクリスト向けの取り組みが進められている。

- ※1 飲食店・ガソリンスタンド・宿泊施設等が休憩スペース、水、トイレ、空気入れ、地域の情報の無償提供やサイクリストのトラブル時に島走レスキュー事業者(自転車店、タクシー事業者等)の紹介及び仲介を行うもの。箇所数は「NPO法人シクロツーリズムしまなみ(平成29年7月18日現在)」による(全124箇所設置)
- ※2 地元の自転車店等が、自転車トラブル等で立ち往生してしまうサイクリストにパンク修理や空気入れの提供を行う。また地元のタクシー会社が道中でパンクした自転車をレスキューポイントまで搬送する取り組み。箇所数は「NPO法人シクロツーリズムしまなみ(平成29年7月18日現在)」による(全22箇所設置)



<島走レスキュー協力店となっているタクシー会社(愛媛県大島)>

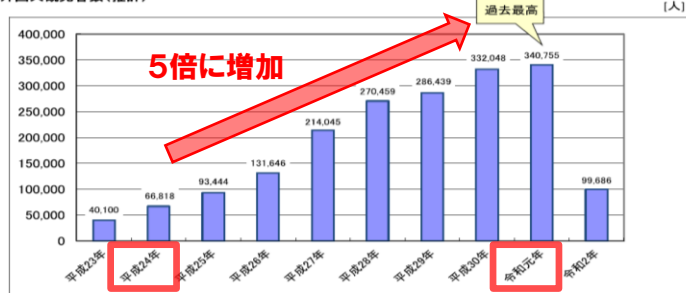


<サイクルオアシス>

(サイクルツーリズムによる外国人観光客の増加)

- レンタサイクル利用実績は年々増加傾向。
- 瀬戸内海を横断し広島県と愛媛県を結ぶ約70kmのサイクルルートである「しまなみ海道」の起点である尾道市では、**国外からの観光客が、令和元年度には、34万人となり、7年前と比較して5倍に増加**

外国人観光客数(推計)



- ぐるっとびわ湖サイクリンでは、認定証の発行や湖上交通との連携等、利用者増加に向けた取り組みを推進
- 北海道では、モデルルートにおける受入環境の改善や情報提供の試行を行い、効果検証する取り組みを推進

【ぐるっとびわ湖サイクリンの取り組み】

(サイクリングロードの概要)

現在では、『ナショナルサイクルルート』に指定

- 滋賀県は、平成13年に琵琶湖を一周できるサイクリングコース「ぐるっとびわ湖サイクリン(193km)」を選定。

(サイクルツーリズムに関する取り組み)

- 走行環境整備(路面表示、案内看板、距離標等)、「サイクルサポートステーション」※1の整備等を実施。
- びわ湖一周サイクリング認定証※2の発行や湖上交通との連携※3等、サイクリスト利用者増加に向けた取り組みを推進。

※1 地元のコンビニエンスストア、飲食店、運送会社の配送センター等がトイレや給水などのサービス、自転車のメンテナンスサービスを提供するもの。

※2 湖岸沿いの施設に設置されたチェックポイントを4箇所以上チェックし、申請すると入手できる認定書。

※3 びわ湖一周のサイクリングの途中、湖上を走るクルーズ船に乗船する際、自転車を積み込めることとしている。

(取り組みの効果)

- びわ湖一周サイクリングの利用者数が、平成27年1年間で推定約52,000人。



＜路面表示＞



＜びわ湖一周サイクリング認定証＞

輪の国びわ湖推進協議会 提供
【資料:輪の国びわ湖推進協議会】

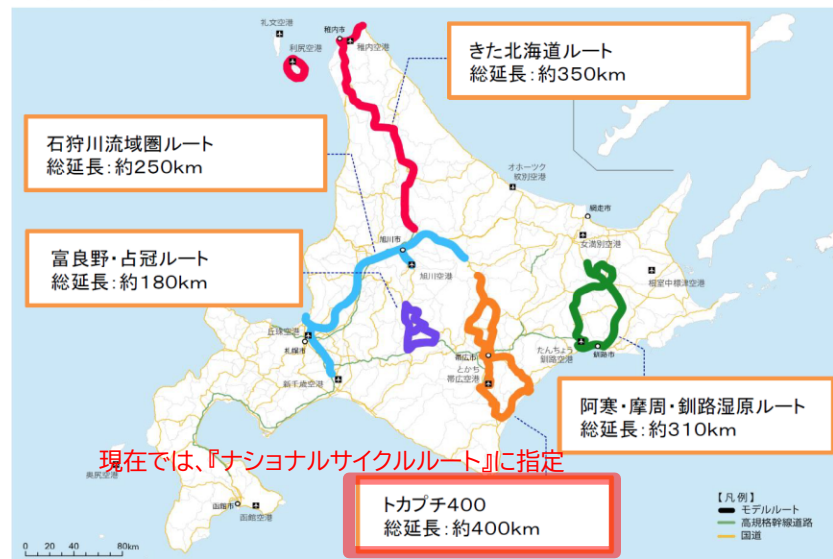


＜クルーズ船の航路図＞

【出典:ピワイチ サポートプロジェクト】

【北海道におけるサイクルツーリズムの推進】

- 北海道では、サイクルツーリズムに関するモデルルートを設定し、民間団体と協力しながら受入環境の改善や情報提供等の試行を行い、効果検証する取り組みを推進。



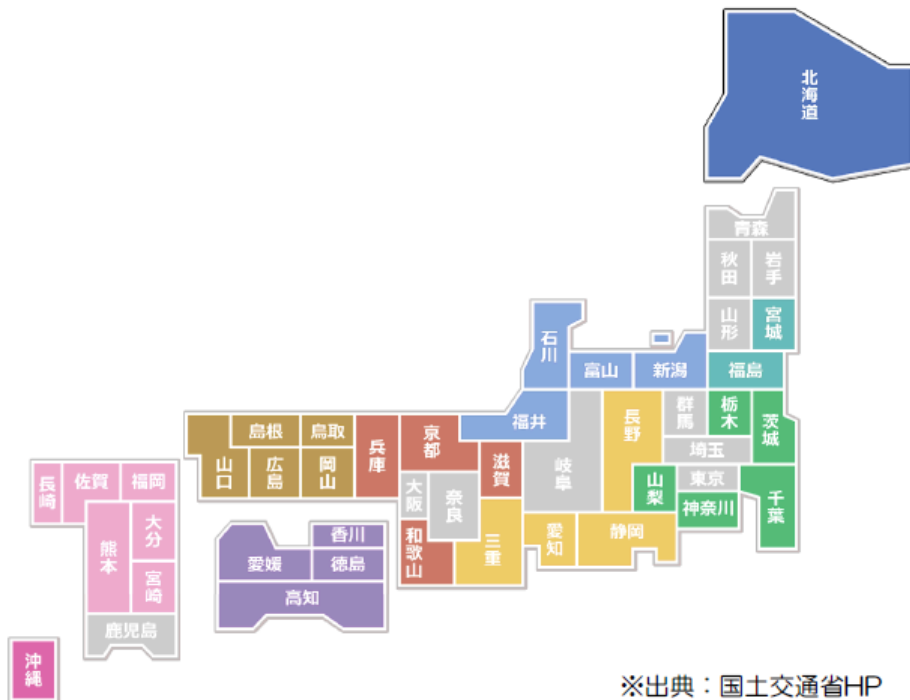
(効果検証する取り組み内容)

- 受入環境の改善
 - ・休憩・宿泊施設
 - ・レンタサイクル環境
 - ・サイクルラック 等のニーズ
- 情報提供、サイクリストとのコミュニケーションサイトの方策
 - ・サイトの使いやすさ
 - ・わかりやすさ 等のニーズ
- 自転車走行環境の改善
 - ・路面表示の設置間隔及び位置
 - ・案内看板(ルート表示)の設置間隔及び位置 等のニーズ
- 持続的取組を進めるための体制、役割分担
 - ・経済波及効果の調査
 - ・サイクリング客数の調査 等

【出典:北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会 第3回 配布資料「モデルルートにおける試行について」】

- 国では、先進的なサイクリング環境の整備を目指すモデルルートを設定し、官民の関係者等で構成される協議会において、走行環境整備、受入環境整備、魅力づくり、情報発信を行うなど、官民が連携して世界に誇るサイクリングロードの整備を図る。
- 令和4年度末時点で77ルートが国のモデルルートに設定されており、東北のモデルルートは3ルートとなっています。【東北】宮城県:1ルート、福島県:2ルート

国のモデルルートの設定状況



サイクルツーリズムの推進 モデルルート



- サイクルツーリズムの推進により、日本における新たな観光価値を創造し、地域の創生を図るため、ソフト・ハード両面から一定の水準を満たすルートを国が指定することで、日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートとして国内外にPRを行い、サイクルツーリズムを強力に推進していくものです。

ナショナルサイクルルート
ネットワーク図



サイクルツーリズムを推進して日本を観光立国へ

